

あいさつ

青木村長 北村 政夫

令和7年第1回青木村議会臨時会にあたり、ごあいさつを申し上げます。

青木三山の木々も芽吹き、日に日に緑の等高線が頂上に向かい始めております。また里では草木の緑が一段と鮮やかさを増し、早いところでは田植えの準備が始まるなど、五月晴れの絶好の季節となりました。

昭和100年、戦後80年という節目、そして日本での大規模万博としては20年ぶりの「大阪・関西万博」が開催中の今年、村議会議員一般選挙が行われました。

議員皆様方におかれましては、4月20日投開票により見事当選されましたこと、心からお祝いを申し上げますと共に、地方自治の目的である①住民の意見を反映した行政、②地域社会の活性化、③村民の福祉向上のためご活躍されますことをご祈念申し上げます。

今回の村議選では、女性議員の方が4名当選されました。皆様には、議会活動の中で、女性の持つ感性を大いに発揮され、ご活躍されることをご期待しております。

私もこの度の村長選挙におきまして、当選させていただくことができ、本日5月7日、改めて村長に就任させていただきました。新たな気持ちでここに立たせていただいておりますが、全村民の皆さんへの感謝の気持ちと、与えられた責任の重さに身が引き締まる思いでございます。

これからは今まで以上に、将来を担う若い人たちの意見を伺い、DXやAIなどの最新技術を活用した村づくりを推進していきたいと思っております。また、多様な人々が安心して暮らせる、汎用性の高い村づくりに励んでまいります。

さて、様々なグローバルな社会現象も蠢く中、現在の課題は国内の安定した政治であります。一例を申し上げれば、超少子化・高齢化社会へ向けての対策、そして世代間による価値観の相違と多様性、1,300兆円を超す国と地方自治体の借金などの財政問題、隣国からの軍事的な脅威等々、私たちを取り巻く課題は山積しております。

一方、村内に目を向けますと、村民の皆さんからは最も優先してほしい政策として、少子化対策・高齢者対策などに起因する医療・福祉及び子育て・教育の充実、そして弱者に対する優しい行政が挙げられております。そこで私は、村政を進めていく上で以下の基本的な考え方のもと、今後の村政を運営してまいりたいと考えております。

何よりも、村の財源を増やす基盤をつくることが極めて喫緊の課題であると考えております。

村が村税などの自主財源で行政経費をどれだけ賄えるのかを示す財政力指数は0.22（2023年統計）であり、県下市町村平均の0.37を大きく下回り、77ある県内自治体の中で58番目であります。私が選挙中訴えてまいりました村づくりの基本方針は、国道143号青木峠バイパスの早期完成を目指し、観光振興や村の特産品の創出により財源を豊かにし、企業誘致を行い、工場を造り雇用を確保する、その税収増により、医療・福祉、子育て・教育の拡充を図ること、そして人口減少にブレーキかけることでもあります。5年後、10年後、そして更にその先の未来を見据えた時、しっかりした中・長期的な展望の中で発展軸のレールを敷かなければならないと考えます。構造的に少子・高齢化の進む中ではありますが、青木村には自然環境や文化・歴史、そして人材など様々な豊かな資源があり、これらをどのように活かしていくかが大きな課題であります。

村政に近道や特効薬はありません。村の課題を専門知識によって分析し、

コストを含めた解決策等の検討を行い、プライオリティの高い政策から実現していくこと、『凡事徹底』を肝に銘じ、当たり前前の政治を、当たり前前の行政を、愚直に行ってまいります。

全国1,718の市町村（内、村の数は183）は、どこでもほとんど同じ課題を抱えております。頭ひとつ抜け出すには、それなりの努力が必要です。「努力は人を裏切らない」という諺がありますが、私は1,718人の首長の中で誰にも負けない努力をしてみたいです。

さらに、村政の課題解決に向けての果敢なチャレンジであります。

新しい仕事をすればするほど、問題が発生し失敗もあります。上手くいかないこと、時間のかかることも多々あります。しかし私は、村民の皆さんや議会の皆さんの期待に応えて、現状に甘んじることなく、志を高く持ち、新しいことへの挑戦をしてみたいです。

これまで3期にわたり村長職を務めてまいりましたが、関係人口・交流人口の確保、財政力の強化、若者定住の促進、民間からの応援など、村の課題を解決し活性化につながる基盤づくりができつつあると思っております。そして、日常生活の利益性、子育てのしやすさや老後の医療・介護体制の充実さなどを評価していただき、「住みたい田舎日本一」の村になりました。これは私一人の力ではなく、村民の皆さん、議員の皆さん、役場職員の皆さんのご支援・ご協力があって成し遂げられたものであります。

さて、今回の村長選で私は公約として、青木村の未来に向けた五つの重点推進プロジェクトを掲げました。

①情報通信高機能化（あおきネットワークプロジェクト）

平成23年3月の事業開始から13年が経過した情報通信サービスの機器類の老朽化に対し、誰一人取り残されない、公平できめ細やかな、災害等にも強い新しい情報通信サービスの再構築を図ります。

②国道143号青木峠バイパス（新トンネル）整備活用プロジェクト

命をつなぐ防災・医療の道として、早期の着工・完成を目指します。観光や経済の交流、産業の振興、雇用創出の基幹軸として最大限の活用を図ります。

③あおきっ子 小・中学校全学年2クラス化プロジェクト

婚活から結婚、妊娠、出産、子育て、教育、就職までトータルでサポートします。働く（働ける）場、働きやすい環境を創り、若い人の移住・定住を全力で応援します。

④健康寿命延伸プロジェクト

保健・医療・福祉・介護予防・日常生活支援の充実を図り、高齢者が安心して暮らせる環境を整備します。健康に食べ、身体を動かし、交流を大切に、元気に暮らせる村づくりを進めます。

⑤新時代創生プロジェクト

青木村の豊かな自然と文化を財産として、ふるさと公園あおき、道の駅あおき、五島慶太未来創造館など、防災や交流の新拠点を活かし、企業誘致、青木峠バイパスの開通、デジタル化の進展など、新時代にふさわしい暮らし方、働き方、生き方を村民の皆さんと共に見出し、ビジョンを共有して計画し、実施していきます。

今回の村長選挙は前回に引き続き無投票となりました。村民の皆さんに公約を訴える機会が少なかった上、選挙と言う審判をいただけなかったことから、私に白紙委任されたわけではありませんので、今まで以上に村民の皆さんと向き合い丁寧な行政を心掛けていきたいと思います。

12年間村長をさせていただき、村の財政力を強くすることが将来にわたり是非とも必要であると痛感しております。そのために、農業や環境等の調和を図りながら企業誘致に鋭意取り組んでまいります。

村民憲章に謳われておりますように、『正義と郷土愛に献身した先人を誇りに、さらに清新にして、明るく豊かな村にする』ため、希望に満ちた美しい村づくりにこれからも真摯に、そして決意を新たに邁進してまいります。

五島慶太翁は『第一に体力、第二に熱と誠、これだけあれば必ず目的を成し遂げられる』と、70年の生涯で得た人生観を語っております。この精神で私もチャレンジし、村民の皆さんには勇気と真心を持って真実を語る開かれた村政を実現させます。

さらに、かのサミュエル・ウルマンは「青春」という詩の中で、『真の青春とは、強い意志、豊かな創造力、燃え上がる情熱、感動する心、子どものような好奇心、未知の人生に挑戦する勇気と喜びである』と言っております。

私はこれを心の糧として、今日から始まった第4期目村長職の第一歩を踏み出しました。

以上、私の所信を申し上げます。

今後、村議会議員の皆様とは、ほどよい緊張感と適度な距離を保ちつつ、率直な意見交換を行い、お互いに知恵を出し合える建設的な関係のもと、村の民主的で効率的な行政を確保し、地方自治法がいうところの村民の皆様の「福祉の増進」という共通の目的に向き合えるようお願いをすることでございます。

どうか議員各位におかれましては、今後の村政運営に対し格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げ、私の4期目の村長就任にあたっての挨拶とさせていただきます。